Centimetres
KODAK Color Control Patches © The Tiffen Company, 2000
Kodak LICENSED PRODUCT
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

明治三十八年九月十一日購求

咲分五人媳

三之巻

第一

同録

強いと弁の目と接拶い親喜て風流者

恙気を自慢の鼻算い男て協ら邪見者

親のない切戸妙子珠勾恵も呆る勤者の男

人目を忍ぶ寝のござとゝ謝の海深い遊

遺へ3
門
號658
巻3

才二

はれ客い京ぐ古市の娘女ゞ若後
繼ぐて行るんな男ま成れ乃新吉と手繰り
年い忘と汲でんる井戸車巴ちあ孫の行破
ムこ知ていい知ゆ也も接ま引ま吉い忘乃口明

才三

紅い尾の時志の編巻ゞ燃る毒女ゞ逃吳
紀でもまの引こ世話と焼法男に那る喫女
自後忘の級と解寺袋毎ひるに入家れ書和
又才のい男川の俄ゆ義てゆく射ま丸

一

法いこ井の間と接始い新と遠ゞ阪流老
生ゞ直言いうゆゞ忘ゞよ逢ま外を走ゞこ長柔い都るけゆ
これを疑ひなしひ。新とゞ走ゞく芸無を新るこゆを彩ひい家
お後の茶ゆれど。ゆいゆゞくゞゆゞんゞ邪る新ゆ始ゆ茶
ゞ今ゞを。きゞず。ゆよゞく無氣まゞるゞ。んゞ。じてをゞゞゞゞば。
うゆゞゞゞゞる後よいよゆゞゆゞ。後ゞを行ゞを住ゞゞの彩ゞを
ゞゞゞ。ゞのゞゆゞ面絡ゞ無ゞゞ。ゞゞゞゞる色ゞん
ゞゞの拓ゞ彩ゞ。ゞゞ人ゞゞゞ紙ゞゞ。ゞゞ住ゞゞに情ゞゞゞゞゞして
ゞゞん。焼ゞゞゞゞゞゞゞ焼ゞ。ゞ。ゞゞ義ゞ紙ゞゞのゞゞゞを引
どゞゞて本ゞゞ仕ゞゞ。ゞゞゞゞゞゞゞ

あせ。第よ汗とまじつ新くゑとゝ合せて味噌とつぐおくうろ。おさんい
紙ばけ水新つきいてすくるゝ。そこ各いろれる毋はの蓋紙たりの間廣
さ面の蓋面の口紙分代古文孔人ゝ手の刑さいにゝ下まれく。
日ざーもたゝ蓋さゝ。遥しおくべ代ちゝるにびゝ各にい宝いゝ面と
ゝくまゝ孔人れの口宅、ごさし。又牙のゝつゞと引どて者ゝゝいゝ引ゝゝ
行牙ゝ仕ゝとゝゝくさゝゝ新つさい。鬼女のゝゝもれめゞ。如房が行行。
後よ私いに引ゝ用ゝくいゝのゝゝ女ゞゝい行ゝ代ゝ今家の月陸ゝゝよ
らねゝゝくいゝ代法ゝ新ゝゝゝて如ゝ紙べおさんいきのゞと引そにゆ
ゝんと新、出ゝとゝ。お市おつゞ後とゝ引そ引ゝゝゝ。おさんゝ代ゝ家紙ゞ一
引の形ひゝよゝゞ代ゝゝさんゝゝゝとゝ代ゝゝゝゝとゝ代ゝゝゝゝ
ゝもくゝにゝゝゝゝゝゝして。能のゝ代ゝゝゝゝ炭鉄とあそゝゝとつ。一
れにゝゝゝゝ仏ゝゝ新ゝれとゝゞゝゝゝ。ゝゝ代ゝゝゝゝゝゝゝゝと

ひるゞ。後一ゝの又牙とひゝゝよゝゝて。ゝゝ宅ゝゝゝゝゝゝ代ゝゝゝゝゝゝゝと
ゝゝてゝゝゞゝゝゝゝゝゝゝゝ

あんじをのくるぶ新ぶんのぷろてのこそすぐさ仕るすい編みて行義つい
あはせと自陸三ふ小ふ寺ふ寺ふ寺

四人の娘たち
世のすくなるものども

五男わまひく女の好風。身の丈ゝぬて。彩所の屋ゝつの乃ゝさて世ひ
そめれつとわさるれての居ゝのゝぶゝ。ゝ。ゝ。

吟味一番の後、終てぶらりと二人共にこがれて大喧嘩の表のうち
ことさらのつぶやくらそこ近たくぶてさて手抱して如此二人一
所よと心を合せ互おかたより子かしてよ若とえ言編はおよろい
手をつれらして祝の表と欠ぶ義ね後よ要ぶつ姫のよと乃
中ての肌付合いゆぐんのうめものぞう

(二) ねぬおい床で古市の娘女が黄泉

鬼の女房に荻めが如いぶ。実に大度の漢主の后よ品后と又
る業さ婦人しあり。坂田の公平が女房ハ出もふく報さえけうるか
ぜしつさいて一生脇をさ新と又すあるといひてもが実女ならば
とて同じ相性なるものそいに出。毋は一番よかれなき。彩人の表
とりのよ公平が女房へ出ひて若如実すて紙とたくとき神といのう。
大なのうつひの表と相とけて。国中に入るさ出如女るうぶ。

年のうれはいぶ私まりとて急つく事のより成れの紙を言い手紙し
ぐうぶけもまさ表の内ぐうまに記るれの出に合ぶ平の庵
て業のよぐう金法へ申し姫よ名手合ひ人よ大義ノ要のお新ぐ方めぐく。
我内ハ只平の姫尺が新文へ新ひ出相ぶ相ぶ相ぶ相ぶ相ぶ相ぶ相ぶ相ぶ相ぶ
姫とつれて下向ぶ内へ入りて相ぶと又れば姫たいうんく法内の表ぐもへ
ぶの中ひそくとつてみる。そなの表の内たいつど。新二人の例のいひど
ぶてぐみつん内ぶて表きふ一年に二度の業表ぶ。まぐくといかすひ
ぶぐ姫てつれて来る姫よ。ぶて法ぐ家おやの行人なるうぶ耳へ入るも
いぐぐ。脇よおさあてぶと主のつりね内ぶてきぐんのぶりかして出く姫
さぐ新表れぐ年のつれなる表の表とさぐぐうてみる。新文みへいてさ
ぶて仕ぶませぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶ
実ぶみ体ぶたがぐ男さぶらておおもてるるもぐぐぐぐぐぐぐぐぐぐぐぐぐぐ

第二のこゝにゆきつゝ。母れの下向をまちかねてこゝにて婦お
いちがせをとりきぶりの時ぐもとうつれて母と一所にいるのこまり長屋く約
い。こゝ新宅へ母づめとなり相せゆへ家ぐのぞつてゆくうびてゆ臣が門
仕ぐ成れつゝ下向をまて居おいつゝとうゆうがおんこう臣がぞれぞへ考
てゆつゝうと横紙ぞうの大まつぎすぐ人等とこよ房よいみ一刻耳三
相ぶとれいぬそもゝ新てぬ相こすこ姫並へけ記者れつゝこづけ
られ相ぶとしおいそふ相ゆとゆて怪んでゐざれとつれてゆ臣むすめよ。
くるまゝおいこゝ出てこよび出とゆ女いてこらおまう。面ゆこ出れすることんて。
後づるかける用信も部びどばれ出先と年ゆにゆまる女の風武い
中かまるはしいつきこ大まに貝ぐとゆそこはくぐこんてつゆにゆ女中ぞるう
ゆりどぐ宅ゆめのおよつぐ記よはまうゆ。およつどこにゆる。出て記とすぐて
こゝ出。世よいこ行よ洲こ人もみすのう記者れの一公ゆまつこ臣細で

かこれけときげんよげよつへばれ。今きこゝるこんかつてゆまつこれど戴
ぐゆ宅の業業と今日懐怪ける。宅ゆゆおすつとすゆこ洲いこまけお
やこゝるとゆ記でのけまれ。ぐ宅ゆ相ゆゆ宅のぼれよゆゆこんゆこゝ。ぞげ
業とひそこのこ家に二人まつこのこ相のこ。おすつと洲て今二人い脇の
法そのまゝ業れ上つ。母ぐ形ゆこの日氏今ぞ一ゆゆの記者れとこゝ
ゆる。一すハ宅の手ゆ中こゝ人ゆと行て。れゆぐ宅ゆすぐ洲つて相こゝぐ
人の姫ぐ成人ゆるこゝぐひぞ相ゆこれの姫いこゝ。ぞで洲ゆ
ゆこゝゆこゝこゝ。ぞ相ぐ考ゆこ人ゆこゝゆ。今日人成ゆの氏
紙とゆこゝぐ小ゆぐて洲つこゝこれべ。ゆ氏れ名ゆい中こゝ氏ゆ
作ぞつゝ記とこゝるゆ。相ゆ相ゆこゝゆこゝ洲ていこゝ。ゆ行こゝ
用こゝかいつこ用信こゝゆこゝ。ゆこゝの記こゝのゆこゝのこゝれのこゝ
こゝひこれ。ぐんこれどぞこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ。ぞこゝこゝこゝ。

ぬれたるで同じくわろき世中の高野やだうでものまゝ
のまゝ女ゝそれとわいそれ〳〵色よりて女ゝ住ふ
ひ無ものとわろ抱こそと色づゝ白く抱とさゝひさゝう
てつゝ色ゝもちゆゝるの抱ゝ色ゝ貴ゝ人ゝてのわれと
ゝ女ゝ抱ゝと名ゝ女ゝあゝてゝうれゝたゝ白ゝ
尾とおゝゝて色ゝ抱ゝの抱ゝ色ゝ色ゝ抱ゝ
ゝれゝ抱ゝかゝらゝおゝつゝゝとゝけゝめ抱ゝ人ゝ抱ゝ
ゝ抱ゝ肝ゝのゝゝに泣ゝれゝ泣ゝれゝのゝかゝゝ抱ゝて抱ゝ
でゝゝ抱ゝ色ゝゝゝ

の中家の侍代。兎抑一学ばの沙弟問答を拵ゆ。爲ゆ。
おのれそれに付て下ゐ分の上れ有ゆ。あとも所ゐ。ゐ。ゐ。秋の名
ゐとといとやうゐ。つゐ。べきゆ。ゐ。ゐ。ゐ

義経大江廣元の方へ廣元、つれまれさじ出てつまをまつべし。廣元
そこで南方の中納言の用れいへ、平代行ひよりこの行度されば彼ら
中にしたがひ光もの宮まの以外。ぞ、ゆ、ろ、の、ふ、常めすれば。
ふはの光義のこれ、ろ、て、て、みべきゆ、ぞ、ゆ、ひ、て、ゆ、ろ、こ、と、ま、ま、
てきやつとすと。向おくさんとそこてゆ、ひ、ぱ、ゆ、ふ、ゆ、こ、ろ、こ、ろ、て、ゆ、ま、
抽後の指さいては南中山伯爵ようくられて内ゆ、ゆ、ぞ、ゆ、ひ、ま、
ゆ、が面紙に知てゆ、れ、ぞ、ゆ、ぞ、面、て、て、ゆ、さ、れ、ど、き、ゆ、ひ、ゆ、ろ、て、ゆ、ひ、
ゆ、れ、ば、ゆ、ま、ゆ、ゆ、ひ、ゆ、ま、ゆ、ま、ゆ、ま

人のいまはのきわにて富んだものと称し人の祖父もつうたえど
今欲ゝ[illegible]きりのいと蚤虱の人をくゝるものと知てそこそこ身の祖父
るものとまうず。黄ゝ姐とゝて汚れをとんざるゞゆゝ一分欲でゝゝめゝゆゝ
三郎。おゝの祖父は丸と云捕。中屋つゝ仕組二ゝめゝの壊ゝ人とひさげん
と稽古にゝゝまゝゝ。欲のゝ出ゝゝ出ゝゝ。ゝ出ゝゝ。ゝ出ゝゝ。

の人とあらそひ出でいるさ侍ぶ。えおまえ。男子の男孫の判官れ
れ出でのめれ利れて海へ出でいるこんこぶ。代の侍下。
男子一人の次男ぶ。行ぶ。
つれひうえ秋の親まとひて。ばばは。ふびぶ。
とう人高貴のさき出でさい。西京ぶ。法世のぶ。盗
逃剃人笑中ぶ。
出ぶ。神と笑れ。平伝ぶ。男孫の系
の出系高。西京扱いは。人の出ぶ。
ものとぶ。人笑のよい海へ出。
ぶ。笑れい母のぶ。笑ぶ。
れ西人の四方い出ぶ。海へ。
ぶ。ぶ。

而よ宿て叫ぶ。ぶ。親の親の神と。ぶ。ぶ。
とあ。ぶ。ぶ。親の親の神。
ます。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。
ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。
ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。
ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。
ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。
ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。
ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。
ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。

ざろ新つきいそ姫の新と打まもりのるうそひるれおんどのの姫きにて。
人くたづくゆぐろしの四の爰いこんいたるよいあそ姫よ姫こる新るぐ。由
元の二郎女まえ門つが新よ疫と付ぷくのこ公とぐめんと。親公外大
まが姫志の爰よ新とそて焼付。こづくぐ二四新に焼ぐひとあそんと。
由ろこ郎が女房さんがつしなまえ姫。新こが新ア方にろ五の妾妻
本こいふ女の出是こづくぐ男いこうこのぐめそいこそゆれ焼ぐひと
あそれぷこいが新紙とすひしれのいつへ西屋五の妾妻本こいふ。
ものこづくぐ乳母姫の子ア姫して幼の河ものとぐ五抱して十八年いち
天いろ五の方、姦に出し四宮に入て病おにあづくぐ孫あこうく
姫の子ア四ついが乳母よあうつきしぐ。妾の妻本ぐ方く怪胎して。
月とかこ男ものとりて。新ア西屋五怪んで長と名て付。姉姉乃
むこ新長おしぐ心変又源氏こお果ものこよつて法ちと公と合。

又この二郎女横戸の座化ぐ新ア見よ公をつぐすこあ中いこよ及つと
岡中へ抱おして。新ものこ新の長と新ものの長の巧。
妻本ものる長見せて男ひどあまつこきやつけてとぐうぬぐ姫の姫
の子へはすけとつあよいあさん。紙る河いの内より災出るこいこものこく
すて西屋こと。ぐくとだま山姫の新書いまひきよ井子へつきこあ
ぐひのぐ紙こ骨新よてつ西屋よあことせんとちひら。姫五の巧を
の抱中の長いの子ぐ。新ものめよめて五新とこうせていろよ抱く
我ものの出世仏祥のあくことうけんぐ出ぐ氏このこ公オのこ生のこ西
ふしるぐ。せめて我ものぐ一つの罪も滅ーやせんぷい悪ある姫このれと
あげら化ー君君の二郎とすくいどんべ方ぐ氏と。ぐ男いろて新
る大食熟の炎のくくこと文ぐ。ぐ男てなとけまいとなりぐやく
ぐ西こと立のこさめくと。たつこ公子こ爰いあり幸にてあり名ぐ。新も

あるべき法なくば拙し奇妙のうまれをうる死でも因ってとうらるる安性をうる
にてくるを見ずしてせにのる身ぐ出仏よりさてである べきうぶん射をめたは則
つしあひる程くあ。尚所祇招村とゞ左衛門よりうるべきてくれ物ゞ伝の
ゆたをもひとつ、おすべきと為ゝゞ人とゞ名ひ人べいぶしを東面、ひけて
四郎あれ。弟に遠ひるもさうぶ力一遍よりそもあらばちるかゞ武家方、
うけ出で。筋よれをべりて越ほそふようれて。ろめけてきとゞ以て
も。懐より陣ようけまるれば。郎天の出仕を遍よのくらねふをつるひて遍
付ゝ。ゞ。一刻もあゝ為さ在ゞ人。ゞ。けゞ仕村ゞ。まうて。射を丸に第也。
神兵のるつく比ひそうに為ゝ。なるゞ。如るれども稼ぬ為ゝ。ようき侍の妻
女のるゞ。ほゞ。ほゞ。ほ